

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月20日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3891000048
事業所名	グループホーム秦皇
(ユニット名)	ほたる棟
記入者(管理者)	
氏名	岡田絹子
自己評価作成日	30年 7月 25日

<p>【事業所理念】 お1人、おひとりが自由に安心して暮らせるようにします。地域の方の力を借り共にこの地で仲良く生活出来るようにします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①それぞれにあった災害時の緊急連絡網を作成する。近隣住民への協力の呼びかけを実施していく。 ②家族、近隣住民を交えて話し合う場を設ける。 ③多方面の方に運営推進会議に参加して下さるよう呼びかけをする。  ①緊急連絡網を作る為、業務カンファレンス等で話し合い、平成28年12月に作成している。 ②運営推進会議や家族会で話し合いの場を設けたが、それ以外では話し合いの場を設けられていない。 ③運営推進会議では行事と一緒に行動して参加しやすい工夫している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 中山町の国道から見える場所にある風格を感じる平屋造りの開設11年目を迎える事業所である。母体は長年地域医療に携わってきた実績のある医療機関であり、主治医や医療関係者と連携を取りながら、利用者や家族の希望に沿えるような重度化や終末期の支援に取り組んでいる。利用者の重度化傾向はあるが、残存機能を活かし利用者の思いや意向を大切にしながら寄り添うケアを実践している。管理者や職員同士のチームワークも良好であり、勤務年数が長い職員も多く、職員は働きやすさを実感している。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	日々話される内容を聞き漏らさずそこに希望や意向があると思われるので会話をするようにしている。	○	/	○	利用者との普段の会話や表情など日常の関わりの中で利用者の思いや意向に気付くことができるように、職員全員で取り組んでいる。利用者や家族から入居時に聞き取った内容は記録に残し、新たな情報も追記しながら職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	相手の立場になってかんがえている。表情など常に観察している情報をもとに。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時等において、何回も来られているご家族でも新しい情報がある。そのような時に話し合いをしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメント等を利用している。いつでも読めるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	1人での判断にならない様常に他者と相談しながらきめている。ご本人の思いは何気ない言葉、態度にあると思われるため会話に注意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所された時も聞いているが、キーパーソンでない方でも面会義等で情報をいただいている。	/	/	○	今までの生活歴やこだわり、好きなものなどを利用者や家族、利用していた介護事業所などから聞いて把握するように努めており、継続できることは日常生活の中でも取り入れることができるように支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	その方の得意な事や、やりがいがあることなどをみて何が出来る何がしたいのか見極めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ご本人がされるのを見守りしかできていない。できない方は職員が実施している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安や不安定になられている時の状態を共有し、これまでの情報を踏まえ要因について考えている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や申し送り等で一人ひとりの生活を把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	御本人の目線で考え利用者様だったらどう思われるかを考え検討	/	/	○	利用者や家族からの情報をもとにチームでアセスメントを行っている。利用者一人ひとりに担当の職員がおり、毎月カンファレンスを行って課題や何を必要としているか、利用者の視点に立って検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	御本人にとっては自宅がやはり、良いと考える。いろんな事情によりホームでの生活を送るため自宅にいるような雰囲気などを考え検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアカンファレンスなどで情報を共有し課題を明らかにし支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	意思の疎通が出来る方は話し合い、意向に沿うこともできている。意思の疎通が出来ない方には本当の意向を把握しきれていない。	/	/	/	利用者や家族の意見や思いを念頭に置いて、担当職員と計画作成担当者が利用者自身の満足感につながったり、身体機能が維持できるようなサービス内容の介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	職員が大体のケアの内容を作成しその後意見をいただいている。話し合いとは言えないと思われる。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	自室で過ごされることが多く慣れ親しんだ暮らしが出来ているとは言えない。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	職員のみでの支援体制である。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	共有できている。	/	/	○	毎日の経過記録が介護計画の目標やサービス内容と連動して記入できるような様式になっており、職員間で状況確認ができるようになっている。職員は普段から介護計画の内容を意識してケアを行っており、具体的内容を記録している。職員の気づきやアイデアはカンファレンスで共有し記録するようにしているが、利用者全員ではないので、利用者一人ひとりの日々の職員の気づき等について、記録するよう努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画にそって支援できている。記録もその都度実施している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別に1日の記録を残している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員の気づきや工夫などは現場で話し合いカンファレンスなどで発表して記録に残しているが、すべてではない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間でも見直ししているが、体調などの変化があった時などはその都度みなおしを行っている。	/	/	○	介護計画の見直しを3か月毎に行うほか、毎月モニタリングを実施しており、定期的に家族にもサービス内容の確認をしてもらい、実施状況を伝えている。新たな要望や心身状態に変化があった場合は、すぐに見直しを行い現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ケアカンファレンスを月1回おこなっている。その時確認を全員でおこなっている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人、家族、職員と話し合い現状に即した計画になっている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	体調面、心身面共に変化等がある時はその都度会議している。	/	/	○	職員全員が参加できる日時を設定しており、毎月会議を行っている。必要時にはその場にいる職員で話し合いを行い、課題について検討している。参加できなかった職員にも記録や口頭で内容を正確に伝える仕組みを作っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	新人の職員にはまだ自分の意見をしっかりと伝えられていない時がある。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	開催日時は全員が参加できるように夜、開催している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	記録をみて、伝わらないところは口頭にて確認している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝、夕の申し送り、申し送りノート等で内容を共有している。	/	/	○	利用者の記録や申し送りノートを確認したり、口頭で伝達するなど職員全員が情報を共有することができるように努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	介護記録により伝え、日報にも記録し、ている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	歌を唄いたいとか作業をしたいなど一部の方には対応できているが、全員の方に対して行えていない。	/	/	/	好きな雑誌を読んだり新聞を毎日楽しみに購読している利用者もおり、日常生活の中で自分が一番何をして過ごしたいか自己決定するなど、選ぶことのできる場面を作っている。体調に影響のない範囲でリビングで過ごしてもらい、体操や歌を歌ったり好きな番組を視聴するなど、楽しみやメリハリのある生活ができるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	時間だから起きて頂くことがあるが、その時本人にえらんでいただいている。本を見られる時も数冊出して選んでもらうなど。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	施設側、職員側が決定している事が多い	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	全てのことに於いて、利用者様に確認はするが職員側を優先している時がある。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	職員が生き生きしていないのではいけないので自ら明るく笑顔で接するようにしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	本人の表情やしぐさなど注意しているが本人の意向に沿っているかは不明である。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修等に参加して人としてどうすべきかなどを学び意識して行動している。	◎	○	○	人権や尊厳について研修で学ぶ機会があり、利用者の誇りやプライバシーを尊重するような関わりに努めているが、利用者の羞恥心やプライバシーへのさらなる配慮が望まれる。居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、無言で立ち入らないようノックや声かけを必ず行い入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	大きい声かけや、その方に対して不快な声かけ話はさりげなくおこなっている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	常に配慮し介護支援している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時はノック等をしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏えいの問題は把握できている。それを理解し対応している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々家事等を手伝って頂き、感謝の気持ちを伝えている	/	/	/	利用者同士の関係性を把握してトラブルを未然に防いだり、利用者が孤立したり疎外感を感じることがないように努めており、利用者全員が気持ちよく過ごせるような環境づくりに取り組んでいる。トラブルになりそうな時は、職員が仲介するなど支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係性を把握し、会話・協力をしている時を大切にしている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性を理解し、席を決めている時には席替えを行い、交流を図っている トラブル時には職員が仲介に入っている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	なるべくトラブルにならないようにしているが トラブル時には職員が仲介に入り、不安にならないよう努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	職員全員ではないが把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	全員が把握してはいない。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	こちらから会いに行かれることはほとんどない。職員も関係が途切れないようには支援できていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ホームに来られた時は居心地良く過ごして頂けるよう、椅子や飲み物を用意して過ごして頂く。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外に出たいとの希望がある方はその都度戸外に外出できるようしえんできている。	△	×	○	花見やいちご狩りなど季節を感じる外出や近隣のコンビニに気軽に出掛けたり、事業所周辺を散歩するなど日常的に外出支援を行っている。重度の利用者も一緒に中庭に出て外気浴をするなど、事業所の外の空気を吸い気分転換が図れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	他の方の協力を得ながらの支援はできていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	リクライニングの車椅子により戸外にでられている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	出来ない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の研修や勉強会等で理解はできていると思われるが要因を取り除くケアはできていない。	/	/	/	重度の利用者も日常的に手足を動かして機能低下が防止できるように、介護計画に取り入れて実践している。リビングでの体操もほぼ毎日職員と一緒に発声しながら行っており、心身機能の維持が図れるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	日々の体操、レクリエーションなどで自然に楽しく維持向上できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	車椅子移乗などできるかたには安全を踏まえみまもっている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	何が得意か好きな事が把握している。	/	/	/	要介護度等状態に関係なく、日常生活の中で何か役割を担ってもらうことにより、利用者にも楽しみや喜びを感じてもらい生きがいにつながるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	何もしない、生きがいになるものがない、ではさみしいので楽しく過ごせるよう取り組んでいる	○	×	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	秋祭りなどは地域の方が来所されるので、ふれあえるよう支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が。選ばれた物とかはその人らしいものなので尊重している。	/	/	/	整容の乱れや食べこぼしなどは、利用者が不快な気持ちにならないようにさりげなく対応している。重度の利用者も含め、訪問美容を利用し、好みの髪型にしてもらったり、家族にヘアカラーをしてもらうなどその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	できるだけ本人の望まれる物で対応するよう支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員同士でその方の今までの情報をもとに考えていく。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	その方に選んでもらったり、確認して対応している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	大きな声等出さず、さりげなく対応している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	出張美容師に全員の方散髪していただいているので望むお店にはおつれできていない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	定期的に美容師の方に来ていただき本人らしい髪型にしている。また、職員も着替えの時など洋服をその方の好きな色形を考えている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している	/	/	/	食卓やお盆拭きなど、利用者ができることに取り組んでもらうよう支援しているが、職員が行うことが多いため、利用者にも手伝ってもらう機会を提供するよう努めて欲しい。献立は法人内で持ち回りで栄養バランスなどを話し合っって作成しているが、そうめん流しやおはぎ作り、収穫したものを一品加えるなど食事が楽しみになるよう工夫している。茶碗や箸は利用者一人ひとりのものが決まっており、利用者の好みのものや使いやすいものを使用している。食事介助が必要な利用者も増え、毎日職員と一緒に食事をとることは難しい中、声かけに努めているが、利用者と一緒に食卓を囲み会話をするなど、和やかな食事のひと時を過ごしてもらいたい。重度の利用者にも調理の音や匂いなど、雰囲気味わえるような配慮にも努めて欲しい。利用者がバランスよく栄養が摂れるよう職員会議等での話し合いや、時には栄養士等専門家のアドバイスを求めることが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	ほぼ職員のみでしている。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	買い物は個人のもは買いに行くが、食材として買い物は出来ていない。盛り付け後かたづけも職員でほぼしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所の時に聞いている好きな者苦手な物、アレルギーの方はこの時点で把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	季節の物でない方が多い。昔懐かしい物も少ない。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	△	刻み食にしたりミキサー食にしている。食べられる時間が長くなれる方はそしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	手に力のない方はプラスチックの材質であったりするが、唐津の材質茶碗や橋を使用されている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	利用者さまと一緒に食事をとれていない。	/	/	×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	×	重度の方がフロアに出られることが少なく調理の音やにおいなどをたのしんだり雰囲気作りに配慮ができていない。	○	/	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ひとり1人の食事チェック表がある。それを見て一日の摂取量の確保を考えている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	△	水分にトロミをつけたり、ぷりん、ゼリーなどのど越しのよいものを提供している。低栄養の方には医師と相談して栄養補助食品等になっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	話し合いは殆ど出来ていない。栄養士のアドバイスも受けていない。	/	/	△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理道具、布巾等の消毒。食材は前日納品される。保存は冷凍冷蔵。食材を残さないようにとめている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口の中のマッサージ等はとても大切な事であると理解している。歯科医が来所され口腔ケアの大切さを勉強をした。	/	/	/	毎食後の歯磨きの際に、口腔内の状況を把握している。利用者の口腔内の清潔が保てるよう支援しているが、全員に対し取り組めていないので、利用者一人ひとりの清潔保持に努めてほしい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に観察しながら対応している。自分でされている方は見守りしながら確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科医から口腔ケアを学んだが日常の支援に活かされていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	ご本人がされるのを見守りしかできていない。できない方は職員が実施している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎日口腔ケアはできている。介助にて口腔ケアをされる方は口の中のチェックができやすいが、ご自分でされる方のチェックができていない。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	協力医院に受診、また、近くの歯科医に連絡して往診にきてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	トイレで排泄が実施できる事がご本人にとって自信につながったり、笑顔になったりすること職員は理解できている。	/	/	/	排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、なるべくトイレでの排泄につながるよう取り組んでいる。体調不良でおむつを使用する期間があっても、体調がよくなるとトイレでの排泄に戻れるようその時の状態に合ったケアに努めているが、少し不十分な感があるので徹底した支援に努めて欲しい。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	本人の食欲減退、不機嫌、腹痛、腸閉塞等の影響がある。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	習慣やパターンをわかっているが、兆候が把握しきれず失敗になっている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	×	現在の状態に納得しているところがある。必要性や適切性等について常に見直し等の支援はできていない。	◎	/	△	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	職員同士の日々の話の中で要因や誘因をさぐっている。具体的にはなっていない。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	出来ている利用者様もおられるが、兆候の見逃しがある。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	夜間に使用するおむつなどは、変更した方が良いと思われる場合家族等に連絡し相談をしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	△	布の下着の方や紙おむつの方おられるが、入所前からの状態である。ひとり1人の状態に合わせて職員が随時使い分けていない	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	自然排便を促す為、日々の飲み物に牛乳、乳酸飲料の提供。また、腹部のの字のマッサージの実施をしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	×	職員の都合で決めていることが多い。湯加減に関しては希望に沿っていると思われる。	◎	/	△	湯温などは利用者の要望に沿っているが、曜日や時間帯など職員の都合等により決めていることが多いので、利用者一人ひとりの要望に沿った支援に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	1人ひとりの入浴時間に余裕をもって対応している。しかし、くつろがれている、という事は確認できない。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	△	入浴拒否のない方にたいして職員本位になっていると思われる時もある。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	家族等にその方にどんな思いがあるのかを聞き取り、いきなり入浴の時間だから入るというのではなく、事前に話をして気持ちが穏やかになり安心して入浴できるように心がけている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックを実施。数字だけには頼らずご本人の、入浴日前後の様子も確認して入浴の可否を決定している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	その方のパターンは申し送りや記録等に把握している。	/	/	/	日中は体調に無理のない範囲でなるべくリビングで過ごしてもらい、生活リズムが整うように取り組んでいる。薬剤の使用については医師と相談して様子観察を行いながら、薬剤に頼り過ぎないように支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	不眠の原因を探るということは話し合い実施しているが生活のリズムを整える工夫は取り組めていない。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	昼夜逆転の方とか夜中々眠られない方もしくは様子をみるようにしている。安定剤	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	食後自室で休んで頂けるよう声かけをする。本人の意向を確認するようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	電話や手紙のやり取りが出来るような支援ができていない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	年賀状等のお手紙も職員が代筆することがある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	電話がかけたい、との要望があればできるだけ速やかに対応できるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	届いたお手紙は読んで聞いて頂き自室に飾っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	本人が電話をかけることには理解していただいている。家族の方に電話や手紙のお願いはしていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	本当は買い物等に行ってお金を使う事の楽しさ、大切さを感じてもらいたいと思っている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	好みのものを買いに行くことやお金を日常的に使う機会作れていない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に殆んど行けてない。買い物先の理解や協力を得る働きかけができていない。買い物に行けない、と決めつけているところもある。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を所持している方は一人おられる。が、それを使えるようには支援できていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	使い方については家族の方と話し合い確認している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	おこずかいとしてホームで預かり、預り証を発行している。出納帳の確認をして月1回家族に送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	専門の医療機関への通院受診援助	◎	/	◎	お墓参りや冠婚葬祭行事の参加など、家族の協力のもと行っている。訪問マッサージを利用している利用者もあり、利用者のニーズに対応できるように取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りできるよう門扉は常に空いている。	◎	◎	○	開放的な玄関を入ると左右にユニットが分かれており、正面に広々とした中庭が見える明るい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	壁紙は季節を反映したものとなっている。どの家庭にもあるようなものをフロアにはおいている。	◎	○	◎	窓から自然光が入り清潔感が感じられるリビングには、ゆっくりくつろげる広さのたたみスペースがある。壁面には季節やユーモアを感じる職員作成の装飾、行事や日常生活の様子を飾っており、会話のきっかけになるように工夫をしている。中庭には椅子が置かれ、自然を感じながら過ごすことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	まどはペアガラスになっている。外の雑音程度は防げている。光は遮光カーテンとなっている。掃除、ゴミ捨ても毎日できている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	時々季節の花をフロアに飾っている。中庭には季節の花野菜を植えている。少しでも季節を感じてもらうため。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自由に居場所を行き来できている。ソファにてくつろいで頂いている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	×	フロア近くにあるトイレが直接見えている工夫ができていない	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	今まで使われていたものを使われるよう話をする。落ち着かれるものなどを考えたり家族と相談している。	◎	/	◎	馴染みの家具や仏壇、冷蔵庫などを持ち込んでおり、利用者が居心地良い空間で過ごせるように支援している。洗面台も各居室にあり、自室で整容することができる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	一人ひとりのわかること、できる事を活かし自立した生活にはなっていない。	/	/	/	車いすや自力歩行の利用者一人ひとりが安全に移動できるように、手すりなどが整備されている。居室の場所を迷われる利用者には、わかりやすいように居室の入口の表示を工夫するなど配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	不安や混乱はご本人も辛いと思われる為	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	本が好きな方は本が、新聞を読まれる方は新聞をいつでも手に取れるようにしている。自室には家族の写真など飾られている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	利用者様ご本人の立場になって考えた時自ずと理解できる。閉じ込められたと思わずにはいられない状況。人としての感情を考えた時理解できている。	◎	◎	◎	鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、日中は玄関の施錠はしておらず、職員が常に見守るなど安全面に配慮し、自由に暮らせるよう支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	現在はおられないが、安全を優先されるご家族に対しての話し合いは難しいのではないかと不安がある。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中、鍵はかけずに過ごして頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人情報、アセスメント等で把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日頃の状態の変化に注意し介護記録、日報に記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	常に相談できている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前の受療状況を把握している。情報を確認している。医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族と話し合い適切な医療を受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	通院、受診に行き当ってからの情報共有話し合いになっている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	本人の詳しい情報を提供できるように努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院との情報交換、相談はできている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	特変や異常と思われる時は職員で判断することはない。常に連絡、報告をしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員は係わりの中で得た情報や気づきを医療連携看護師に相談したり主治医に連絡している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	体制は整えられている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	医療連携体制加算を取得している。その為状態変化が生じた時は看護師、主治医に速やかに連絡を対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	病院、薬局からの薬の情報を確認し理解をして服薬して頂いている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	その日の薬を一人ひとりの場所に入れ飲み忘れ誤薬を防いでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	毎日のバイタルチェックで脈拍が多い方がおられた時その状態を主治医に伝え定期薬に問題があることが判明したことあり。また、排泄チェックをすることで、整腸薬の調整をすることができた				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に医療行為対応希望書をかいて頂くが体調の変化に伴い家族と話し合い意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	看取り指針を定めており、希望があれば事業所で最期まで支援できる体制が整っている。今までも看取りの経験があり、利用者や家族、職員や医師、医療関係者などと話し合い方針を共有し、重度化や終末期支援に万全を期している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化、終末期に、なられた場合は常に、本人、家族、職員、主治医、医療関係者で話し合い方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員には力量に差があり、十分なケアに不安があるときは他の職員も一緒に支援できる用意がある。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	介護において私たち事業所ができる事、出来ない事を詳しく説明を行い理解をえている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療部門や介護部門で話し合いまた家族も含め、キーパーソン以外の方も一緒に今後の対応を考えていく	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	日頃より状態を伝えている。重度になられたときはその都度状態の変化を伝え、少しでも家族の支えになれるよう努める	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会、研修等にて対応策等について定期的に学んでいる。参加できる機会はつくられている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	取り決めはあるが、日頃からの訓練を行ったりはしていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ、ラジオ、医療機関からの情報などでとりいれている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ、ラジオなど、また地域住民よりの情報などをもとに対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員はもとより手洗いうがいはできている。来訪者にはフロアに入られる前に消毒してもらえようになっている。利用者様には手洗いや手拭いにて対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族と共に利用者様を支えるという考えを職員はもっている。	/	/	/	家族に事業所の行事に参加してもらえるように、案内や声かけを行っている。利用者の状態はその都度電話連絡をしたり、写真入りの便りを作成して利用者の日常生活の様子や行事について具体的に伝えている。事業所の運営上のことや、職員の異動等についても家族に報告するよう努めて欲しい。家族の来訪時には必ず職員から声かけをするなど、相談しやすいよう雰囲気づくりに努め、希望や意向等を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも面会できます、と言うことで面会時間はもうけていない。防犯上7時に鍵はかけるが、事前に連絡頂ければ対応する。宿泊も可能である。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	クリスマス会家族会などの行事にはさんかされた。、収穫祭としてご案内をかけたが家族の参加はなかった。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日常の暮らしぶりは、便り、電話などでお伝えしている。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族が来られた時プランのことなど説明時にそれ以外のことなど話された時に具体的に話されることがあり、聞き漏らさないようにし不安や知りたいことなど伝えられるようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症への理解 キーパーソン以外の家族に病気の説明をし理解につとめる。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事などは協力を得ている。職員の移動退職等の報告をしていない。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年1回のクリスマス会及び家族会、家族対応運営推進会議の参加をうながしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者様の考えられることを説明している。しかしその事で利用者様が制限されることが少なくなるよう話あっている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の不安や、希望など、どの職員にも伝えたり相談ができるようにしている。利用者様の様子、健康状態など伝えるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	理解 納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ホームの方からの退去はない。またその場合は次の施設、または病院をホーム側が探すという体制がある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	事前に文書にてご案内をかけ、しかるべき日時に、会社側より説明会を開き同意を得る。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	特別にそのような機会をもうけてはいない。運営推進会議、クリスマス会などで、目的、役割を説明。	/	△	/	管理者は地域に事業所の存在を、より浸透させたいとの思いがあるため、祭りや運動会など地域行事に積極的に参加するなど、地域とのつながりを深められるよう努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	職員の地域の行事への参加 町内のお祭りへの参加 花見 運動会の見学など 福祉施設の催し物等への参加	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	以前より少なくなったように思う	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に来られてはいない。ホームに気軽さがあまりないようにも思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	散歩に行かれたときなどは、挨拶などしている。しかし日常的に遊びに来られたり、お付き合いとまではできていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	殆んどできていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域資源は把握しているが、利用者様のために活用できていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	福祉施設、消防、コンビニ、交番、教育施設等に声はかけている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	会議に毎回家族、地域の方の参加はない。	×	/	×	利用者や家族等が毎回参加することは少ないため、開催日や時間を工夫するなど、参加しやすいような取組みに期待したい。外部評価結果や事業所の取組状況の報告を行うなど、今後のサービス向上につながるよう努めて欲しい。運営推進会議での事業所からの報告に対する参加者からの意見や提案は、職員会議等で話し合い今後の運営に活かせるよう努めて欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	会議にて、評価の内容を報告したがその後の目標達成計画の内容、取り組み状況については報告していない	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	一部事業所からの報告になってしまった。テーマによっては意見や取り組みについてはなしあっている。	/	△	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加して頂けるようテーマに合わせてメンバーの変更したり時間帯も考えた。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	公表していない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	グループホームの基本的考えの元家庭的な雰囲気	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ホーム内に理念を掲げている。地域の人には殆んどつたわっていない。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	習熟度に合わせた研修に参加できている。	/	/	/	代表者は、管理者を通じ外部研修の日程や内容を職員に周知し、スキルアップできるよう希望の研修が受講できるよう配慮するほか、職員がやりがいをもって働けるような職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	資格取得の支援	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	時間外の支給、賞与、昇進の機会がある。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	勉強会、研修等に参加できる機会はつくられている。同業者とのネットワーク作りも少しずつできている。地域密着型サービス協会加入	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者会議での話し合い	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修、勉強会等で学び理解している。	/	/	/	研修や勉強会などで虐待や不適切なケアについて具体的に学んでおり、無意識のうちに見逃されていないか普段のケアを振り返り、発見した際の対応や手順についても認識している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日常において日頃のケア等の話し合いはしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会等において対応や手順について学んでいる。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員は常に緊張感をもって利用者様に接している。職員には常に注意は払っているつもりではあるが、十分ではない。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	身体拘束について定期的に理解できるよう勉強会等を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ケアカンファレンスや日頃の話し合いで現状のことについて話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	基本的には施錠はしていない。しかし、命に係わることであるため理解して頂くには難しく話し合いはしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	成年後見制度は学んでいるが制度の違いや利点などは理解しているとは言えない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	具体的に相談支援はしていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	権利擁護を利用されるかたは現在までおられなかった。が地域包括センター等とは連携をきずいている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	事故発生に対してマニュアルを作成している。職員が全員の把握はむずかしい。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年1回救命救急の研修をうけている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ケアカンファレンスにより事故報告、ヒヤリハット報告を職員間で検討再発防止につとめている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアからまた、記録から状態の変化など共有し事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情マニュアルを作成している。全員が把握していない	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。また、市にも相談している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった時にすぐ対応できるだけ早く改善をしてその報告をし話し合いを重ね信頼を得られるようにつとめている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者の中には訴えが難しいかたがいる。その方には機会が設けられていない現状がある。自分から訴えができる方は個別に聞いている。	/	/	○	意見や要望を伝えにくい利用者もいるが、表情や言葉から汲み取ることを普段から意識し、利用者の意見等の把握に努めている。家族には来訪時や、利用者の状態を報告する際に職員から声かけをしており、意見や要望等が伝えやすいよう配慮している。管理者は普段から職員と現場で業務にあたっており、職員はいつでも気軽に管理者に相談ができ、意見等を言いやすい環境であると感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時などにこちらから伺えないかを尋ねている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日常、面会時などに直接受けることもできる事や市役所等の窓口があることをおしらせしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は主治医であるため月、約半分来所するためその時に機会がある。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月1回の業務カンファレンスにて意見交換をしている。また、日々その都度話し合いをしている。	/	/	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の目的意義は理解できている。評価を受けるということに対して話し合いをしている。	/	/	/	評価結果の報告が、運営推進会議の一部の参加者にとどまっているため、今後は家族を含め、運営推進会議の参加者全員に事業所の取組みのモニターをしてもらい、今後の運営に活かせるようになることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	業務カンファレンスや日々のコミュニケーションにて現状について話し合っている。意識統一までにはいたっていない	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	実現可能な目標にはしているが、全体で取り組むというよりは一部のことで、全体が把握しているとはいえない	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	評価結果の報告が一部の方になっている。今後の取り組みモニターもしてもらっていない	×	×	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	確認していない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルは作成している。火災、地震、風水害 周知している。	/	/	/	事業所の避難訓練は消防署立ち合いのもと様々な想定で行っているが、地域住民との合同訓練などは行えていないため、今後は地域との協力関係の構築に努め、地域住民との合同での避難訓練等にも取り組むことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼間、夜間を想定して訓練している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	設備、経路の点検はしるべき機関で定期的に行っている。食糧、備品、物品等は期限など職員で点検している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	運営推進会議で地域住民の方と話し合いをした。日頃からの連携や支援体制はできていない。話し合いの時災害時の具体的な対応の助言を頂く	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	共同訓練はできていない。消防署との風水害の訓練は実施	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地区の方に対してほとんど発信できていない。クリスマス会の案内を出し、その時施設の概要をお知らせするに留まる	/	/	/	地域の高齢者や家族からの相談があれば対応している程度であるため、今後は事業所のPRも積極的に行うなど、相談件数が増えるような取組みに期待したい。市など地域の関係機関等と連携し、認知症ケアの実践力を地域に還元するようなイベント等に取り組むなど、地域のケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	この施設がどんな施設であるのかをご存じないかたが、多いので入居される、されないなど関係なく説明相談には対応している	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方の受け入れはできるが、こちらからの発信ができていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力する意思はあるが、こちらからアプローチや要請等がない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	中学校の体験学習の受け入れ要請があり受け入れ、2日間介護に携わっていただいた。	/	/	△	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月20日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3891000048
事業所名	グループホーム秦皇
(ユニット名)	くり棟
記入者(管理者)	
氏名	岡田絹子 高橋龍平
自己評価作成日	30年 7月 25日

<p>【事業所理念】 スタッフの心にゆとりを持ち表情 柔らかく入居者の方に接する</p> <p>入居者の方々を観察しその方を 知ると共に日々の変化に気づく</p> <p>スタッフ同士情報を共有し合い一 人一人のその時を把握し接する</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①それぞれにあった災害時の緊急連絡網を作成する。近隣住民への協力の呼びかけを実施していく。 ②家族、近隣住民を交えて話し合う場を設ける。 ③多方面の方に運営推進会議に参加して下さるよう呼びかけをする。</p> <p>①緊急連絡網を作る為、業務カンファレンス等で話し合い、平成28年12月に作成している。 ②運営推進会議や家族会で話し合いの場を設けたが、それ以外では話し合いの場を設けられていない。 ③運営推進会議では行事と一緒に行動等して参加しやすい工夫している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>中山町の国道から見える場所にある風格を感じる平屋造りの開設11年目を迎える事業所 である。母体は長年地域医療に携わってきた実績のある医療機関であり、主治医や医療関 係者と連携を取りながら、利用者や家族の希望に沿えるような重度化や終末期の支援に取 り組んでいる。利用者の重度化傾向はあるが、残存機能を活かし利用者の思いや意向を大 切にしながらかり添うケアを実践している。管理者や職員同士のチームワークも良好であ り、勤務年数が長い職員も多く、職員は働きやすさを実感している。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、 意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常会話や家族との会話で把握に努めている	○	/	○	利用者との普段の会話や表情など日常の関わりの中で利用者の思いや意向に気づくことができるように、職員全員で取り組んでいる。利用者や家族から入居時に聞き取った内容は記録に残し、新たな情報も追記しながら職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人の視点で考え、職員間で話し合っている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時等で話をしているが諸事情により来られない方もいる為全員ではない	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	記録を行っている時もあるが口頭での申し送りが多く思いの整理があまり出来ていない	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	思いを大切にしよう心掛けているが職員の思い込みや決めつけに関わっていることが多い	/	/	/	
2	これまでの暮らしや 現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居時に事前情報を頂いているが分からないことも多く後日知ることも多い	/	/	○	今までの生活歴やこだわり、好きなものなどを利用者や家族、利用していた介護事業所などから聞いて把握するように努めており、継続できることは日常生活の中でも取り入れることができるように支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者と向き合い表情や訴えから心身の把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	そのような場面・場所で不安にならないように把握に努めており、声かけや対応を工夫している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員の対応や本人の体調等、不安や不安定になる要因の把握に努めている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の様子・変化を記録し申し送りを行い把握に努めている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人視点でなく、職員目線になることが多いがカンファレンスで話し合っている	/	/	○	利用者や家族からの情報をもとにチームでアセスメントを行っている。利用者一人ひとりに担当の職員がおり、毎月カンファレンスを行って課題や何を必要としているか、利用者の視点に立って検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の生活を観察しその人らしい生活が出来るよう努めている。またカンファレンスでも話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	毎月モニタリングを行い、カンファレンスで話し合っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人や家族の思いを聞き利用者本意のプランになるように努めているが、負の点ばかりに着目した計画になっていることもある				利用者や家族の意見や思いを念頭に置いて、担当職員と計画作成担当者が利用者自身の満足感につながったり、身体機能が維持できるようなサービス内容の介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	生活の中で得た情報や家族からの情報をもとにカンファレンスで話し合い作成している	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	本人の意思の把握は難しいが、家族等から情報を頂き本人の合った内容になるよう努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力は得られているが、地域の方との協力体制は十分ではない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月のカンファレンスでケアプランを確認し、話し合い把握に努めている			○	毎日の経過記録が介護計画の目標やサービス内容と連動して記入できるような様式になっており、職員間で状況確認ができるようになっている。職員は普段から介護計画の内容を意識してケアを行っており、具体的内容を記録している。職員の気づきやアイデアはカンファレンスで共有し記録するようにしているが、利用者全員ではないので、利用者一人ひとりの日々の職員の気づき等について、記録するよう努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	毎日の記録は行っているが、具体的な記録が行えていない時もある。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	日々の個別記録は行っているが具体的な内容は欠けている			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	メモ等に記入し、話し合っている事もあるが個別に記録が出来ていないこともある			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	長期・短期共にカンファレンスを行い見直しをしている			○	介護計画の見直しを3か月毎に行うほか、毎月モニタリングを実施しており、定期的に家族にもサービス内容の確認をしてもらい、実施状況を伝えている。新たな要望や心身状態に変化があった場合は、すぐに見直しを行い現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月カンファレンスを行い、個別のケアを話し合っている			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人の状態に変化が生じた場合、家族に報告し現状に見合ったプランを作成している			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月カンファレンスを実施している。緊急時にはその都度緊急カンファレンスを行っている			○	職員全員が参加できる日時を設定しており、毎月会議を行っている。必要時にはその場にいる職員で話し合いを行い、課題について検討している。参加できなかった職員にも記録や口頭で内容を正確に伝える仕組みを作っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自分の考え等を意見として伝え話し合っている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	特別な事情がない限り、全職員が参加している。公休時は時間外で出席している				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録を残しており、目を通してもらっている 又、口頭での申し送りもやっている			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌やメモに記入し、申し送り・共有している			○	利用者の記録や申し送りノートを確認したり、口頭で伝達するなど職員全員が情報を共有することができるように努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	業務日誌・申し送りで把握出来るようにしている 又、メモ用紙等を利用し全職員に情報が伝わるようにしている	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	意思表示の出来る方は可能な限り行っているが出来ない時もある	/	/	/	好きな雑誌を読んだり新聞を毎日楽しみに購読している利用者もおり、日常生活の中で自分が一番何をして過ごしたいか自己決定するなど、選ぶことのできる場面を作っている。体調に影響のない範囲でリビングで過ごしてもらい、体操や歌を歌ったり好きな番組を視聴するなど、楽しみやメリハリのある生活ができるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	入浴や食事等、自己決定の場を設けているが職員のペースになっていることがある	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	出来る限り利用者のペースに合わせて支援したいと思っているが、個別にて差があり出来ないこともある	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	声かけにて本人の意思の確認を行っているが、職員のペースになりがちである	/	/	/	
		e	利用者の生き生きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の喜ぶ言葉や行動を日々の生活で把握している	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	本人の表情や行動から読み取る努力をしているが実行に移せていない場合もあり、個人差もある	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	勉強会や研修に参加しているが、それを常に意識して出来ている時もあれば出来ない場合もある	◎	○	○	人権や尊厳について研修で学ぶ機会があり、利用者の誇りやプライバシーを尊重するような関わりに努めているが、利用者の羞恥心やプライバシーへのさらなる配慮が望まれる。居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、無言で立ち入らないようノックや声かけを必ず行い入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	声かけ・言葉使い等に気を付けているが、家族のように接してしまうこともあり、配慮に欠けている	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	プライバシーには配慮しているが、本人の意思とは違い見守りが必要だと考える場合は、見守り・介助を行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	訪室時にはノック・声かけを行うようにしているが十分ではない	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に個人情報に関する誓約書を交わしている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々家事等を手伝って頂き、感謝の気持ちを伝えている	/	/	/	利用者同士の関係性を把握してトラブルを未然に防いだり、利用者が孤立したり疎外感を感じることがないように努めており、利用者全員が気持ちよく過ごせるような環境づくりに取り組んでいる。トラブルになりそうな時は、職員が仲介するなど支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係性を把握し、会話・協力をしている時を大切にしている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性を理解し、席を決めている時には席替えを行い、交流を図っている トラブル時には職員が仲介に入っている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	なるべくトラブルにならないようしているが トラブル時には職員が仲介に入り、不安にならないよう努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族や本人からの情報はあがるが、家族以外の人間関係までは把握しきれていない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族から把握出来ている方もいるが全員の方の把握までは出来ていない	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	友人等面会に来られている、又、一部の方は墓参りや結婚式等家族の協力のもと、外出をされている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	玄関を開放し、訪問しやすいようにしている 居室やフロアでゆっくり過ごして頂いている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩や日光浴を日常生活に取り入れているが職員の都合によりいつもは行えておらず場所もデッキや施設周りが多い	△	×	○	花見やいちご狩りなど季節を感じる外出や近隣のコンビニに気軽に出掛けたり、事業所周辺を散歩するなど日常的に外出支援を行っている。重度の利用者も一緒に中庭に出て外気浴をするなど、事業所の外の空気を吸い気分転換が図れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方々の協力を得た外出支援は出来ていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	散歩や日光浴を取り入れているがあまり出来ていない	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	外出行事や家族の支援により出来ている方もいる	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	施設内外の研修に参加し、理解を深めている	/	/	/	重度の利用者も日常的に手足を動かして機能低下が防止できるように、介護計画に取り入れて実践している。リビングでの体操もほぼ毎日職員と一緒に発声しながら行っており、心身機能の維持が図れるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	施設内外の研修や勉強会に参加し、理解を深めている生活の中でレクリエーションや運動、生活リハビリを取り入れている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日常生活において、出来る出来ないを見分けながら一部改良するように努めている	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人が日課としている手伝いを役割として捉え、強力して頂いている	/	/	/	要介護度等状態に関係なく、日常生活の中で何か役割を担ってもらうことにより、利用者に楽しみや喜びを感じてもらい生きがいにつながるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	楽しみや役割をもって生活出来ている方もおられるが全員は出来ていない	○	×	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では支援出来ていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好きな洋服や髪型等を聞いて把握に努めている				整容の乱れや食べこぼしなどは、利用者が不快な気持ちにならないようにさりげなく対応している。重度の利用者も含め、訪問美容を利用し、好みの髪型にしてもらったり、家族にヘアカラーをしてもらうなどその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	馴染みの理髪店に行かれている 服や持ち物は家で使われていたものを持ってきて頂き整理している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	気持ちに沿って支援しているが、職員の意向が強くなっている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には服装や身だしなみには気を付け その時々合わせた服装を心がけている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	乱れや汚れに関してはさりげない声かけや介助に努めている 毎日の髭剃りや汚染時の更衣等、その都度更衣をして頂いている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	殆どの方が出張美容を利用されている 一部の方は家族と行きつけの美容室に行かれている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	洋服は家族の方に持って来て頂き、過ごしやすい服を着ていることが多い			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	調理は一緒に行っていないが、下ごしらえや後片付け等職員と利用者が一緒に行っている				食卓やお盆拭きなど、利用者ができることに取り組んでもらうよう支援しているが、職員が行うことが多いため、利用者にも手伝ってもらう機会を提供するよう努めて欲しい。献立は法人内で持ち回りで栄養バランスなどを話し合っ作成しているが、そうめん流しやおはぎ作り、収穫したものを一品加えるなど食事が楽しみになるよう工夫している。茶碗や箸は利用者一人ひとりのものが決まっており、利用者の好みのものや使いやすいものを使用している。食事介助が必要な利用者も増え、毎日職員と一緒に食事をとることは難しい中、声かけに努めているが、利用者と一緒に食卓を囲み会話をするなど、和やかな食事のひと時を過ごしてもらいたい。重度の利用者にも調理の音や匂いなど、雰囲気味わえるような配慮にも努めて欲しい。利用者がバランスよく栄養が摂れるよう職員会議等での話し合いや、時には栄養士等専門家のアドバイスを求めることが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食材は配達してもらっているが、下ごしらえや後片付け等出来る事は一緒に行っている			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	後片付け等を進んでされ、日課や役割としてされる方もいる				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人の好みの把握に努め、味付けや代替品等を用意して提供している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	メニューに偏りがありいつもは行っていない 家族の方が持ってこられた食材を調理する工夫をしている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としてつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	利用者の嚥下状態や体調に合わせた食事形態で提供しているが、盛り付けの工夫には至っていない				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	×	施設で用意している物を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	毎日一緒に行っていないが、出来る時には見守り介助をしながら行っている			×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	目が見えにくい方や意思表示が困難な方に対し、具材や献立を伝えている	○		△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者の希望や状態に応じた食事量や水分量を提供している				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	毎食、食事量と水分量を記録しており少ないと思われる方には食事以外にも水分やおやつを提供している				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいない為、アドバイスは受けていないが献立委員で検討を行っている			△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具の洗浄・消毒を行っており、食材の在庫管理を行っている						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解しており、毎食後、口腔ケアを行っている	/	/	/	毎食後の歯磨きの際に、口腔内の状況を把握している。利用者の口腔内の清潔が保てるよう支援しているが、全員に対し取り組めていないので、利用者一人ひとりの清潔保持に努めてほしい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケア時、確認に努めているが把握出来ていない人もいる	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医師等からアドバイスは受けていないが清潔を保つよう心掛けている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	見守りと声かけを行い、必要時には介助にて行っている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	見守りと声かけを行い、必要時には介助にて行っている 又、洗浄剤等を使用して汚れを落としている	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常がある場合には家族に連絡・相談をし受診・往診をするかどうか対応している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄は大切なことなので理解している 排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる	/	/	/	排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、なるべくトイレでの排泄につながるよう取り組んでいる。体調不良でおむつを使用する期間があっても、体調がよくなるとトイレでの排泄に戻れるようその時の状態に合ったケアに努めているが、少し不十分な感があるので徹底した支援に努めて欲しい。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	原因や影響について理解しており、定期的な排便があるよう支援している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表でパターンを把握し、日々の変化に気付けるように注意している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	誘導・声掛けを行い、トイレでの排泄を基本としている 個々に合ったりハビリパンツ・尿取りパットの使用を検討している	◎	/	△	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	看護師に定期的に情報提供を行い、職員間でも検討し改善に努めている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定期的なトイレ誘導・声掛けに合わせて早めの声掛け誘導を行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族との相談は行うが、本人との話は出来ておらず職員・家族の意向が強い	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中・夜間・外出時等、おむつを使い分け個々に合わせて種類も使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動やマッサージ、飲食物等で工夫を行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴時には声掛け・確認を行っているが、入浴できる時間が決まっている為、希望に添えていないと思われる入浴の長さや温度は利用者に合わせている	◎	/	△	湯温などは利用者の要望に沿っているが、曜日や時間帯など職員の都合等により決めていることが多いので、利用者一人ひとりの要望に沿った支援に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	1人ずつ入浴し、好みに合わせた温度・入浴の長さを取れるようにしている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で出来ること、更衣や洗身はしてもらうように出来ないところを介助するようにしている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けの工夫を行っているが拒否がある時は後日入浴して頂いていることもある	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い、本人の状態を見るようにしている 入浴後は本人に合わせた休息・水分摂取を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個別の介護記録を記入し、把握している	/	/	/	日中は体調に無理のない範囲でなるべくリビングで過ごしてもらい、生活リズムが整うように取り組んでいる。薬剤の使用については医師と相談して様子観察を行いながら、薬剤に頼り過ぎないように支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠時には話を聞き、不安を取り除いている 日中は運動や活動量を増やすよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	日中の様子や活動量・夜間の様子を確認し支援内容を検討している 主治医と相談し、睡眠導入剤を使用している方もいる	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の希望や状態を見て、日中も休息を取って頂いている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望する方には、いつでも電話が出来るようにしている 手紙のやり取りは行えていない	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人から希望がない方に対しては支援出来ていない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話している時には、職員が席を外しゆっくり電話出来るようにしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	本人に渡したり、代読を行っている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には十分に説明し、理解・協力を頂いている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人が買いたい物やお金を使う事で楽しみを持つことの重要性を理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	希望のある方には近所のコンビニ等へ行くようにして出来る限りの支援をしている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物に行くときは近くのコンビニが多い為理解と協力は得られていると思われる	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談の上であるが、お金を持たれている利用者もいる しかし、殆どの利用者が施設でお金を預かっている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族・本人と相談の上、使い方等を決めている 殆どの方がお金を施設で預かっている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	出納長を作製し、確認してもらっている 毎月、領収書等を郵送している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族との外出、墓参りや法事、結婚式への参加の支援等を行えている 訪問マッサージ等を利用している方もおられる	◎	/	◎	お墓参りや冠婚葬祭行事の参加など、家族の協力のもと行っている。訪問マッサージを利用している利用者もあり、利用者のニーズに対応できるように取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	玄関内には花を置いたり、飾りをしているが外観は殺風景で一般の方は出入りにくいと思われる	◎	◎	○	開放的な玄関を入ると左右にユニットが分かれており、正面に広々とした中庭が見える明るい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の花や飾りつけを行っている 台所は対面式で、浴室やトイレは一般的な物となっている フロアには畳の間もある	◎	○	◎	窓から自然光が入り清潔感が感じられるリビングには、ゆっくりくつろげる広さのたたみスペースがある。壁面には季節やユーモアを感じる職員作成の装飾、行事や日常生活の様子を飾っており、会話のきっかけになるように工夫をしている。中庭には椅子が置かれ、自然を感じながら過ごすことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、清潔に気を付けている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花や飾り等、工夫をしている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアでは自由に畳や椅子で過ごし、デッキや玄関でも過ごされている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	使用時は扉を閉めて、プライバシーに配慮している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	布団やテレビ・写真等、希望により自由に持ち込まれている	◎	/	◎	馴染みの家具や仏壇、冷蔵庫などを持ち込んでおり、利用者が居心地良い空間で過ごせるように支援している。洗面台も各居室にあり、自室で整容することができる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	施設はバリアフリーで、廊下やトイレに手すりがあり安全に生活できる 後付けで手すりを付けた場所もある	/	/	○	車いすや自力歩行の利用者一人ひとりが安全に移動できるように、手すりなどが整備されている。居室の場所を迷われる利用者には、わかりやすいように居室の入口の表示を工夫するなど配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者が混乱や失敗があった場合は、職員で話し合い片付けや配置等を工夫している	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	洗面台やフロアの棚に、花を置いて利用者が手入れをされることもあるが、新聞等はいつでも手に取れるところに物は置かれていない	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	基本的に鍵は掛けておらず、自由に出入り出来るようにしている デッキにも自由に出入りされている	◎	◎	◎	鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、日中は玄関の施錠はしておらず、職員が常に見守るなど安全面に配慮し、自由に暮らせるよう支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	帰宅願望や徘徊等により、外へ出ようとされる方の家族とは話し合い、理解を図っている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	フロアの出入り口にはセンサーが付けられており開け閉めで音で知らせるようにしている 外へ出ようとされる方には声掛けや行動で対応している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人のファイルがありいつでも確認できるようにしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	異常時や身体状態の変化があった場合は記録し申し送りも行っている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医の往診や医療連携時に状態の報告や相談を行っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族・本人の希望する医療機関に受診できるようにしている	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に希望を確認しており、希望する医療機関を受診できるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果は家族へ報告しており、家族が受診へ行った場合は報告も受けている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設での生活・本人の特徴・日頃のケア等、情報提供をしている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	×	入院中、お見舞いに行くことはあっても情報交換や相談はあまり出来ていない				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	主治医はいるが、現在入院患者を受けて入れておらず入院となる場合、入院先も分からない為、関係性は築けていない				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	主治医往診や医療連携看護師の訪問看護があり気になることはその都度報告・相談が出来る				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	主治医・医療連携看護師に24時間、連絡出来るようになっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、状態の変化や異常の発見に努めている 状態の変化や異常があった場合には主治医・看護師に報告・相談が出来る				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	処方箋はファイリングし目を通せるようにしているが全て把握しているとは言えない				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時、手渡しを行い飲み込みまで確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を観察し、異常があった場合には気づけるよう努めている 処方が変わった場合には、特に気をつけている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	変化があった場合、職員間で話し合い主治医・看護師に相談している しかし家族には細かなことは伝わっていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、緊急時と終末期の対応について話し合い意向を確認している 状態が変化した場合には、都度確認を行っている	/	/	/	看取り指針を定めており、希望があれば事業所で最期まで支援できる体制が整っている。今までも看取りの経験があり、利用者や家族、職員や医師、医療関係者などと話し合い方針を共有し、重度化や終末期支援に万全を期している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族や職員だけでなく、主治医・看護師にも相談を行い方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	主治医・看護師等、関係機関と協力し、管理者含め職員同士助け合い、終末期まで支援している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時や状態に変化が見られた場合に、説明を行い入院等の対応を話し合っている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期に安楽に暮らせるよう、主治医・看護師と連携を図っている 又、施設内外の研修に参加し、終末期への理解を深めている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族と話し合い心情の理解をし、支えになるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内外の研修に参加や勉強会を行い、学ぶ機会を設けている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症のマニュアルはあるが、訓練は行っていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞等で情報を入手している 又、地域の学校や病院等の施設からの情報も入手し感染予防に努めている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の学校や病院等から情報を入手し、感染予防に努めている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、うがい等を行っており、マスク・消毒液等を玄関に置いて感染予防に努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	面会や外出等をよくされている家族もあり、よく話も出来ているが施設にあまり来られず任せっきりになっている方もおられる	/	/	/	家族に事業所の行事に参加してもらえるように、案内や声かけを行っている。利用者の状態はその都度電話連絡をしたり、写真入りの便りを作成して利用者の日常生活の様子や行事について具体的に伝えている。事業所の運営上のことや、職員の異動等についても家族に報告するよう努めて欲しい。家族の来訪時には必ず職員から声かけをするなど、相談しやすいよう雰囲気づくりに努め、希望や意向等を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	自室やフロアで自由に過ごして頂いている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	家族会や多くの方が参加しているが、他の行事への参加は殆ど無い	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、新聞の発行を行っている 面会時には近況報告をするようにしている	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会や電話にて話をしており、気になることはないか確認をするようにしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会時には認知症の理解・対応等、説明を行う時があるが、これまでの関係を把握は出来ていない	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事等は広報紙に記載しており、その他の事項は面会時等に説明している	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年に一度、家族会を行っている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒や精神面でのリスクを説明し、理解を頂いている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時等、日頃の様子や状態の変化等を伝え家族の意見・希望を聞くようにしている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	主に管理者が行っており、理解は十分に得られていると思われる	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退去にあたる説明も行っており、入院の長期化等の事例も伝えている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	内訳を書面で示し、説明を行い同意を頂いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	開設準備にあたり、事業所の説明等を行っていないが運営推進会議や家族会等で随時説明を行っている	/	△	/	管理者は地域に事業所の存在を、より浸透させたいとの思いがあるため、祭りや運動会など地域行事に積極的に参加するなど、地域とのつながりを深められるよう努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域行事へ参加することはあるが、日常的な働きかけは出来ていない	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	利用者の友人等はおられると思うが、実際には分からない	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	地域の方が来られることは殆どない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	挨拶や声かけ等はあるが、施設に来られることは殆ど無い	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	家族会に来て頂き、催し物をして頂くこともあったが日常的な関わりは無い	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	学校、店、郵便局等、生活に必要な場所はあるが支援出来ていない	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域行事への参加や近所に買い物、消防署立ち合いによる避難訓練等を行い、施設への協力・理解を持って頂くよう努めている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	運営推進会議は定期的に行っているが、毎回家族の参加は出来ていない	×	/	×	利用者や家族等が毎回参加することは少ないため、開催日や時間を工夫するなど、参加しやすいような取組みに期待したい。外部評価結果や事業所の取組状況の報告を行うなど、今後のサービス向上につながるよう努めて欲しい。運営推進会議での事業所からの報告に対する参加者からの意見や提案は、職員会議等で話し合い今後の運営に活かせるよう努めて欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議では都度近況報告を行い、外部評価等の説明も行っている	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議では家族や参加者からの意見を頂き施設の運営に活かしている	/	△	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間帯等を配慮し開催している 行事とも組み合わせ利用者や職員の日常も見て頂く工夫をしている	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	議事録を残しファイリングしているが、公表はしていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	法人の理念を元に業務に努めている ホームでも理念を作り、実践できるよう努めている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を施設内に掲示しているが、伝えきれていない	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員一人ひとりに合わせた研修に参加出来ている	/	/	/	代表者は、管理者を通じ外部研修の日程や内容を職員に周知し、スキルアップできるよう希望の研修が受講できるよう配慮するほか、職員がやりがいをもって働けるような職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	資格取得や研修参加の支援を行っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	時間外支給・賞与や希望休等、シフトの調整を行っている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム連絡会へ加入しており、研修や交流の場が作られている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	管理者会議で話し合いを行っている 忘年会の補助を行っている	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修等で学び、理解を深めている 現場では虐待の無いように努めている	/	/	/	研修や勉強会などで虐待や不適切なケアについて具体的に学んでおり、無意識のうちに見逃されていないか普段のケアを振り返り、発見した際の対応や手順についても認識している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々業務の中で話し合い、申し送り等を行っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々のケアで適切な言動、対応をしないように心掛けている 職員同士声を掛け合い、注意し合える関係性を築いている	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の体調不良時には勤務交代を行っている 気になる職員がいる場合には、声を掛け話を聞いている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修への参加や勉強会を行い、理解を深めている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	廃止委員会やカンファレンス等で話し合う機会を作り日頃より気を付けている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	拘束や施錠の要望は今のところないが、利用者の状態が変化した場合には、拘束やその弊害についての説明をしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修等に参加した方もいるが、あまり理解できていない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	利用している方もおらず、相談等も出来ていない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今まで利用された方はいないが、今後利用される方がいれば支援していく				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルを作成しているが、見る機会がなく周知出来ているか分からない				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救命救急等の訓練を定期的に行い、身につけている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットを記入しカンファレンス等で話し合い、再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状態を把握しており、安全に生活出来るよう事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルを作成しているが、対応方法の検討はあまりしていない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	代表者・管理者に相談し速やかに対応するようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合、サービス改善に取り組み納得を得られるように努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常生活の中で話をして意見や要望の把握に努めている			○	意見や要望を伝えにくい利用者もいるが、表情や言葉から汲み取ることを普段から意識し、利用者の意見等の把握に努めている。家族には来訪時や、利用者の状態を報告する際に職員から声かけをしており、意見や要望等が伝えやすいよう配慮している。管理者は普段から職員と現場で業務にあたっており、職員はいつでも気軽に管理者に相談ができ、意見等を言いやすい環境であると感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族会・面会時に話し、意見や要望を頂いている	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	運営推進会議等で情報提供を行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	往診や巡回を行っており、話をする機会はある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	個別に話をする機会はないが、業務の中で話は行っている			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に一回は自己評価を行っている	/	/	/	評価結果の報告が、運営推進会議の一部の参加者にとどまっているため、今後は家族を含め、運営推進会議の参加者全員に事業所の取組みのモニターをしてもらい、今後の運営に活かせるようになることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価を通して意識の統一の機会としている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	結果を確認し、目標を作製しているが事業所全体では取り組めていない	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	結果の報告は行えているが、モニターの依頼はしていない	×	×	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	取り組みの成果の確認はあまり出来ていない	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルを作成しているが、見る機会がなく周知出来ているか分からない	/	/	/	事業所の避難訓練は消防署立ち合いのもと様々な想定で行っているが、地域住民との合同訓練などは行っていないため、今後は地域との協力関係の構築に努め、地域住民との合同での避難訓練等にも取り組むことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間を想定した避難訓練を定期的に行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っており、南予防災の点検もある	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署の方には訓練に立ち会ってもらい、連携を築いているが、地域の方との協力体制は不十分である	/	/	/	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の災害対策に参加できていない	○	×	△	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	現在地域への取り組みは出来ていない	/	/	/	地域の高齢者や家族からの相談があれば対応している程度であるため、今後は事業所のPRも積極的に行うなど、相談件数が増えるような取組みに期待したい。市など地域の関係機関等と連携し、認知症ケアの実践力を地域に還元するようなイベント等に取り組むなど、地域のケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていない	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	開放し、活用出来ていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の中学生の職場体験の受け入れをしている	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域行事に参加を行っているが、ボランティア活動への参加は行っていない	/	/	△	